

医師と医師会を結ぶ情報紙

令和8年10月15日／毎月1回15日発行

都医NEWS

Vol.
728

発行所 ■公益社団法人 東京都医師会 〒101-8328 千代田区神田駿河台2-5 TEL.03-3294-8821(代) 定価 ■1部 77円

東京都医師会 定例記者会見	01
底流／地区医師会長連絡協議会報告	02
地区医師会新会長紹介 他	03
みどりの広場 ほか	04
ふれあいポスト	05
感染症豆知識 ほか	06
地区医師会長からの一言	08

港区・青山 ムラサキシキブ

撮影：大畑隆郎(板橋区医師会)

東京都医師会 定例記者会見

9月8日(火)



質疑応答の様子

東京都医師会では令和9年度東京都予算要望として、少子超高齢社会を見据えた重点医療政策13項目を東京都に提出した。本会見では、都行政と連携しながら医療・介護・福祉の持続可能な体制構築を目指す立場から、その重点政策と将来への展望について広く発信した。

尾崎治夫会長は、人口が減らないまま高齢化が進む東京では、独居高齢者の増加や医療・介護の人材不足、また物価高騰による病院経営状況の悪化など、地域医療を取り巻く課題が一層深刻化していると訴え、高齢者を孤立させない地域包括ケアネットワークの更なる充実に尽力していくと述べた。

一方、健康寿命の延伸と持続可能な医療提供体制の構築に向けては、治療中心の医療から予防重視の医療へ転換が求められる。①ワクチン接種、②健診・検診体制の見直し、③フレイル・認知症予防の3つの柱を掲げ、「積極的予防医療」の推進を強調した。

こうした考え方のもと策定した重点医療政策について、各担当副会長から具体的な説明を行うとつないだ。

平川博之副会長は、新型コロナウイルス感染症について「高齢者では依然として重症化・死亡リスクが高い」と指摘し、高齢者施設でのクラスター防止のため、施設利用者のワクチン接種費用無償化を求めた。また、児童生徒の自殺や不登校の増加を踏まえ、スクールカウンセラーの配置体制の強化や学校・保護者・医療機関との連携強化の必要性を訴えた。

更に在宅療養では、コロナ禍で培われた各地区医師会を中心とした24時間診療体制を継続・発展させるため、新たに始まった区市町村を中心とする在宅療養推進事業への支援継続を求めた。その他、深刻化する医療・介護の人材不足対策、認知症のある人も身近な地域で必要な医療を受けられる医療提供体制の充実、予防医療も含めたフレイルサポート医の一層の拡充を求めた。

土谷明男副会長は、都内の病院を取り巻く経営状況は依然として厳しく、東京都が実施した実態調査でもその深刻な状況が明らかになったと伝え、地域医療を安定的に提供していくためには、継続的な

実態把握と支援の充実に不可欠であるとして、調査および支援事業の継続を求めた。

また、災害関連死を減らすには、災害発生時は医療機関だけでなく、高齢者施設や障害者施設も含めた迅速な情報共有と連携が重要となることから、EIMS、保健所、避難所、福祉施設等のリアルタイムの情報共有を行うため、D 24H（災害時保健医療福祉活動支援システム）を活用した通信訓練の実施を要望し、平時からの備え強化を訴えた。

東京都医師会が考える重点医療政策

1. 高齢者施設利用者の新型コロナワクチン接種費用の無償化
2. 児童生徒のメンタルヘルス対策の強化
3. 新たにスタートした「区市町村在宅療養推進事業」への支援と検証
4. 深刻さを増す医療介護人材不足への支援
5. TOKYOオレンジ医療システムの充実
6. フレイルサポート医地域連携支援事業のさらなる拡充
7. 医療経営状況調査の継続と東京の医療のレベル維持のための支援
8. 医療介護福祉をまとめた通信訓練の実施
9. 医療DXの推進
10. 加熱式タバコに対する規制強化
11. 下水を用いた感染症サーベイランスの強化
12. 学校医の系統的研修システムの構築
13. 積極的予防医療に向けて健診・検診における新規検査導入の推進

積極的予防医療を推進する13の重点医療政策を発信

加熱式タバコからも発がん性を含む有害物質が検出され、健康への影響の可能性を否定できないと国の専門委員会が見解を示しており、紙巻きタバコと同様の規制強化の必要性を訴えた。

感染症対策では、症状の有無や受診行動に左右されず地域全体の感染症流行状況を把握できる下水サーベイランスに着目。流行の兆候を早期に捉え、医療提供体制の備えや予防策の迅速な実施につなげるため、観測体制の制度化を要望した。

更に、学校医が担う役割の重要性を踏まえ、産業医制度のような系統的研修システムの構築を提案。加えて、尿中微量アルブミン検査、NT-proBNP心不全予防検

診、便中ピロリ菌抗原検査などの導入を健診・検診事業で推進し、早期発見や重症化予防による健康寿命の延伸、医療費の適正化を目指すための予防医療の実現を求めた。

底流

くどいと言われようが…

新型コロナウイルス感染症が5類に移行した頃、某業界誌に「喉元過ぎれば熱さを忘れる」と題して、コロナ禍の「熱さを忘れる」ことに警鐘を鳴らした。

報道の機会こそ激減したが、先生方もご承知のとおり新型コロナウイルスの新規感染者は後を絶たない。

令和6年の新型コロナウイルス感染症の死亡者数は、全国で約3万5千人で季節性インフルエンザの約10倍、死因の第8位であった。令和7年

も両者の死亡者数には3倍の開きがあった。そもそも両者の感染者総数が著しく異なるため、新型コロナウイルス感染症の死亡者数は脅威である。

更に、東京都の調査では集団発生の約7割が高齢者施設等の社会福祉施設であった。実際、東京都老人保健施設協

会の調査によれば、令和8年1月から7月までに施設内で新型コロナウイルス感染症が発生したのは、回答71施設中の半数近い33施設。このうち、20人以上の発生が5施設、10〜20人未満の発生が9施設と、集団発生の実態が明らかになった。高齢者施設にはハイルスク者が多く、加えて密な集団生活、身体接触を伴うケア等タクラスター化の条件が揃っている。

高齢者、高齢者施設の感染予防、重症化予防にはワクチン接種が重要である。最新のWHOの見解でも高齢者、ケア施設・長期療養施設の入居者、中重度の免疫不全者を最優先として、定期的なワクチン接種を推奨している。しかし、我が国の新型コロナウイルスワクチン接種率はインフルエンザワクチン接種率よりはるかに低い。時事通信社・地方行政調査会が政令指定都市、中核市、県庁所在地、東京特別区等を対象に「新型コロナウイルスの定期接種対象者の自己負担額と接種率に関する調査」を実施したが、回答106団体（回収率97.2%）中、前年度よりワクチン接種の自己負担額が増加したのが84団体、接種率が低下したのが101団体であった。接種率の

高い地域は自己負担が無償、低額の自治体であり、自己負担が増すと接種率が下がる傾向が明確になった。命を守る重要施策が住所地で異なることは看過できない。これから本格化する東京都、東京都議会、都知事への令和9年度東京都予算要望では本件を重点要望として強く訴えていきたい。少なくとも高齢者施設の入所者、通所者、できれば職員に対するワクチン接種の無償化は譲れない。

何故なら、新型コロナウイルス感染症は過ぎるどころか未だ喉元にどどまっているからである。（平川博之）

地区医師会長
連絡協議会報告

令和8年9月18日（金）

◎都医からの伝達事項

（一）令和9年度東京都予算に対する要望事項について

来年度の東京都予算に対する要望を行った。重点医療政策については、ここ数年で実現が求められる政策課題を中心に13項目に取りまとめ、東京都保健医療局長ならびに福祉局長を通じて東京都知事に提出した。また、都議会自民党、都民ファーストの会、都議会公明党の政見ヒアリング

の場において要望内容の説明をした。

（二）令和8年度在宅難病患者訪問診療事業地区医師会別実施状況（第1四半期）について

令和8年度在宅難病患者訪問診療事業（第1四半期4〜6月分）の地区医師会別の実施状況について報告した。引き続き事業実施に協力いただきたい。

（三）令和8年度フレイルサポート医研修会の開催について

今年度の「フレイルサポート医研修会」の受付を開始した。10月24日（土）と12月26日（土）の2日間、同一の内容で開催する。会員へ周知の協力をお願いした。

（四）令和7年度東京都がん検診精度管理評価事業の結果公表について

令和7年度に実施された本

事業について、東京都ホームページ（とうきょう健康ステーション）にて結果が公表された。会員への周知をお願いした。

（五）「診療所におけるベースアップ評価料の届出に関するアンケート調査」の集計結果について

8月に実施した標記アンケート調査の結果について報告した。

（六）外来医師過多区域における新規開業者に提供を求める医療機能に関する意見照会への回答について

外来医師過多区域の候補となる地区医師会には、新規開業者に提供を求める医療機能に関する意見照会が、東京都より本会を通じて行われる。東京都が作成する説明動画で内容を確認の上、回答するようお願いした。

（七）安否確認サービス（ト

ヨクモ）2026年一斉訓練の結果について

昨年より東京都医師会において「安否確認サービス（トヨクモ）」を利用している。

9月1日に実施された、一斉訓練の結果について報告し、地区医師会における対応について提案した。

（八）令和8年熊本地震における東京都医師会の対応「J-MAT 関連」について

7月28日に発生した令和8年熊本地震における、本日までの状況と本会の対応について報告した。

◎地区医師会からの報告

（一）中央ブロック

（二）城東ブロック

（三）城西ブロック

①杉並区医師会雑誌別冊 新型コロナウイルス・パンデミック特集 杉並・医療現場からの報告について
（杉並区医師会）

医師国保からのお知らせ

医師国保に加入しましょう！
～医師国保は都医会員の
相互扶助を行う国民健康保険です～

- 新たに東京都医師会に入会した方
- 現在区市町村国保に加入中の方
- 退職等により共済・組合健保等の資格を喪失した方は、ぜひご家族や常勤の従業員の方と一緒に加入してください。

各種届出に必要な書類は、
ホームページよりダウンロードできます。

東京都医師国民健康保険組合 ☎ 03-3270-6433（業務課）

- （四）城南ブロック
①第十五回大田区医学会について（田園調布医師会）
- （五）城北ブロック
- （六）多摩ブロック
- （七）大学ブロック

- ①予防接種オンライン請求に関する地区医師会の今後の動向について（足立区医師会）
- ◎その他
①医療機関内における盗撮防止ポスターの作成について（練馬区医師会）

◎出席者による意見交換

地区医師会新会長紹介

①最終卒業校 ②略歴 ③趣味 ④好きな言葉

千代田区
医師会
鈴木つとむ
努(内科、循環器科、
精神科、皮膚科)

- ①新潟大学
- ②千代田区医師会理事、同副会長
- ③乱読、愛車のブジョー2008でのドライブ、時々ベース
- ④知足(足るを知り、日々感謝する)

港区
医師会
中村まさひこ
正彦(内科、消化器科、
外科)

- ①日本大学医学部
- ②港区医師会理事、同副会長、都医代議員、同公衆衛生委員会委員
- ③ゴルフ、バンド活動
- ④一期一会

新宿区
医師会
星野ひろし
洋

(小児科、内科)



- ①日本大学医学部
- ②新宿区医師会理事、同副会長、都医代議員、同感染症・予防接種委員会委員、新宿区教育委員会委員
- ③林道ドライブ、撮り鉄
- ④フラットアウト

田園調布
医師会
瀬川たかし
貴

(内科、小児科)



- ①日本大学医学部
- ②田園調布医師会理事、同副会長、都医代議員
- ③吉本新喜劇
- ④All things must pass.

都医からのお知らせ
INFORMATION

第66回 国際治療談話会 総会【宇宙医学】

問合先 (公財)日本国際医学協会 事務局 東京都世田谷区上馬1-11-9 3F
TEL: 03-5486-0601 FAX: 03-5486-0599
E-mail: imsj@imsj.or.jp 協会ホームページ: <https://www.imsj.or.jp/>

日時▶ 11月19日(木) 19時~21時30分 会場▶ 紀尾井フォーラム

【第1部】感想 「地域医療構想」のこれまでとこれから

【第2部】医学講演 1.「宇宙医学の挑戦と展望」/2.「マウス宇宙実験を用いた骨格筋制御機構の解明とその応用」/3.「ポストISS時代を拓く宇宙医療・創薬—民間宇宙ステーションの海外動向と日本の医療・創薬産業への展望—」

取得単位▶ 日医生涯教育制度2単位(CC: 10、12、19、0)

申込方法▶ 11月16日(月)までに、右記二次元コードまたは協会HPより事前登録をお願いいたします。申込多数の場合は会員優先、事務局からの返信をもって、お申し込みを確定とさせていただきます。

参加費▶ 無料

蒲田
医師会
秋田やすし
泰(内科、消化器内科、
小児科、皮膚科)

- ①昭和大学医学部大学院
- ②蒲田医師会理事、同副会長、都医予備代議員、同選挙管理委員会予備委員、日医代議員
- ③音楽(演奏すること・聴くこと)
- ④敵は己の中にあり

八王子市
医師会
永野あつし
敦

(内科、小児科)



- ①東京医科大学医学部大学院
- ②八王子市医師会理事
- ③鉄道旅行、鉄道模型
- ④ノブレス・オブリージ

令和8年度

多摩ブロック医師会会長・副会長連絡協議会



西野会長

課題を共有し、医師会相互・地域災害拠点中核病院・東京都医師会との広域連携のあり方を協議することであると説明があった。

講演では、アンケート結果「多摩地区災害医療訓練の現状と展望」について、小金井市医師会の菊地隆文理事から、広域災害ネットワーク・医療救助・医療搬送の詳細な解説がなされ、結果を踏まえた幾つもの課題が提案された。救護スタッフ、特に多職種のスタッフ不足や出務者の補償制度が挙げられた。また、東京都医師会には、課題に対する補完と地域連携の旗振りをお願いしたいと結んだ。

冒頭、同医師会の西野裕仁会長の挨拶では、連絡協議会の事前アンケート「災害医療体制及び広域連携に関する調査」の概要ならびに目的について、多摩地区各医師会における災害医療体制の現状及び

続いて、東京都医師会の宮崎久理事が、「救護所の先にある災害医療」多摩地域の広域連携と医療継続を考える」と「東京都モデルと地域モデル」災害医療体制の共通化と地域最適化」の講演を行った。

災害時等の対応には、平時からの訓練が重要であり、東京都全体の基盤となる共通モデルの作成や定着が必要となる一方、地域には各々の特性があり、十分な状況把握と地域最適化が要求される。日頃の訓練の機会を

利用して、地区医師会内外の顔の見える連携、多職種や地域住民との連携を行い、非常時には総動員で対応していかなければならない。更に超高齢社会では要配慮者の増加が見込まれ、各連携(医療・介護、病診、診診、病院・診療所介護施設)がより重要となると述べた。

東京都医師会の尾崎治夫会長は、「基本的には本日の内容に沿って対応をしていくことになるが、地域には財源の差があり、現状では地域最適化は難しい。このような地

域差が無いように、国が整備をすべきである」と訴え、会場からは多くの拍手が起こった。

懇談の後、小金井市医師会の田中功二副会長の閉会挨拶により、盛会裏に終了した。



尾崎会長



宮崎理事



菊地理事

パズル
請求事務
攻略のパートナー!

東京労働保険医療協会

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-5
東京都医師会館 4階 TEL 03-5577-2960

222
みどりの
広場臨床実習で学んだ
「医師としての原点」

昭和医科大学医学部医学科6年

山下賢士郎



医学部での学びは、膨大な医学知識を体系的に身につけることから始まる。解剖学をはじめとする座学は医師になるための基盤として不可欠であるが、教科書上の知識は断片的な「点」として存在していた。2年次の後期からは見学型の臨床実習が始まり、共用試験合格後は、各診療科を1カ月単位で学ぶ診療参加型の臨床実習に臨んだ。

臨床の現場では、座学で学

修した知識が実際の診療や手術に直結していることを実感する場面が数多くあった。例えば、左精巣静脈は左腎静脈に流入し、右精巣静脈は下大静脈へ流入するという解剖学的知識は、試験でも頻出である。泌尿器科での実習を通じて、この血管走行は腎切除術などの手術において極めて重要な意味を持つことを理解し、なぜこの知識が求められるのかを深く納得することができた。

た。このように、座学や講義で学んだ知識が臨床で目の前の患者さんの安全や治療に関わっていることを知り、私の学びは臨床現場における患者さんの視点を意識するように変容した。

医療家系ではない私にとって、臨床現場における指導医からの長年の経験に裏付けられた一つひとつの指導は、胸に突き刺さる学びの連続であった。特に印象に残っているのは、指導医が患者さんに

大学の建学の精神である「至誠一貫」の真意を改めて深く理解するとともに、患者さんから学ばせていただいているという謙虚な姿勢を学んだ。患者さん一人ひとりの人生や価値観に触れる経験こそが、医師としての成長につながることを確信している。私はこれから医師としての人生を歩むうえで、この原点をいつまでも忘れずにいたい。

地域の実情やニーズを理解しながら患者さん中心の医療を実践するために、目の前の患者さんと誠実に向き合い、人生に寄り添える医師を目指して日々研鑽に励みたい。

大学は、指導医が患者さんに誠実に向き合う姿である。高年齢に伴う慢性疾患の増加や、AI技術の発展により、患者さん自身が医療情報を得やすくなった現代において、医療への期待やニーズはますます多様化している。このような時代においても患者さんとの対等な立場で真摯に向き合い、適切な表現で説明する技能や、多職種と協働しながらチーム医療を実践する姿に強く心を動かされた。

令和8年度 労災診療費算定基準・
地方公務員災害補償制度・
自賠責保険診療費算定基準の説明会

主催：公益社団法人東京都医師会／東京労働局
地方公務員災害補償基金東京都支部
一般社団法人日本損害保険協会関東支部
損害保険料率算出機構自賠責損害調査センター首都圏本部
東京労働保険医療協会

日時：11月26日(木)
13時30分～16時25分(開場：12時30分)
会場：東京都医師会館 2階講堂(千代田区神田駿河台2-5)
対象者：都内医療機関の請求事務担当者(定員：250名)
演題：「労災診療費算定基準について」(75分)
「地方公務員災害補償制度について」(35分)
「自賠責保険診療費算定基準について」(40分)

参加費：無料
参加方式：事前に「東京都医師会研修申込システム」より登録・申し込み
URL <https://study.tokyo.med.or.jp/publish/Login>
※必ず、ご出席される方の氏名でお申し込みください。

問合先：東京都医師会 事業部 医療保険課
電話：03-3294-8838



お店の前での写真撮影。
左からオーナーシェフ橋本健さん、筆者。

蒲田西口「串幸」

こだわりの鮮魚に
多彩な串焼き

趣味の散歩

皆さん、大田区蒲田の西口にある「バーボンロード」をご存じでしょうか。40年以上前からある蒲田東急駅前通り会のことです。JRや東急線の蒲田駅から約3分、東急線の高架下にある商店街で、個性的なお店がひしめいています。このバーボンロードに「串幸」があります。お店は3階建てで、1階は調理場を囲むようにカウンター席と2人掛けのテーブル席が少し、2階は掘りこたつ形式の席、3階は個室となっています。

お店のメニューには四季折々の食材を使った料理やお酒などがあり、こだわりは毎日豊洲から買い付ける鮮魚と定番から変わり種まで多彩な串焼きです。その他にもホントにいろいろなおつまみや食事が充実しており、目移りしてしまいます。オーナーシェフは2

ます。私も普段はカウンターで、周辺医師会などの会合などには個室を利用させてもらっています。

代目の橋本健さん。横浜の和食店で数年にわたり修行をされました。剣道で鍛えた頑丈な体で、1階のカウンターで腕を振るっています。この他にも数人の調理担当の方が所狭しと仕事をしています。お料理が美味しいのはもちろんのこと、見た目も美しくひと工夫があり、また手作りの食器やメニューが何とも楽しくなります。

お店がお休みの日には2階や店先でのライブもあり、お店全体がいつも和気あいあいとしています。女性一人でも安心して入れるアットホームなお店です。皆様も機会があればぜひ一度訪問してみてください。

(蒲田医師会 秋田泰)

令和8年度 医療保険講習会(医師対象)

【複合科】11月14日(土) 14時30分～16時40分

- ①学術講演：「HPVワクチンについて」《CC：11、1単位》 講師：崎山小児科 院長 崎山 弘
②保険診療の基本的事項について《CC：6、0.5単位》
③保険請求について《CC：6、0.5単位》

【皮膚科】11月21日(土) 14時30分～16時40分

- ①学術講演：「皮膚悪性腫瘍の診療の進歩について」《CC：0、1単位》 講師：千葉大学大学院 医学研究院皮膚科学 教授 猪爪隆史
②保険診療の基本的事項について《CC：6、0.5単位》
③保険請求について《CC：6、0.5単位》

【整形外科】11月28日(土) 14時30分～16時40分

- ①学術講演：「骨粗鬆症とロコモ―骨密度だけでは見えない姿勢・体幹バランス・移動機能―」《CC：77、1単位》 講師：昭和医科大学 医学部リハビリテーション医学講座 准教授 永井隆士
②保険診療の基本的事項について《CC：6、0.5単位》
③保険請求について《CC：6、0.5単位》

【会場】東京都医師会館(千代田区神田駿河台2-5)

【定員】各回300名(先着順。定員になり次第締切り)

【備考】・各回とも日本医師会生涯教育制度の単位取得可能(来場参加者に限る。講習会終了後に掲載する動画の視聴では取得不可)

【参加申込】【申込期日】11月6日(金)

右記の研修申込システムより、当日受講される方の氏名で申し込みいただき、申込完了時に発行される「受講証」の二次元コードを表示できるスマートフォンやタブレット等の端末、または二次元コードを印刷してご持参ください(非会員も申込可)。

<https://study.tokyo.med.or.jp/publish/Login>

(研修申込システム)

【開催情報】

講習会の詳細や注意事項について、事前に右記のページをご確認ください。また、講習会終了後、1カ月程度を目途に東京都医師会ホームページ上に講演の映像や資料データを掲載する予定です。閲覧の際のパスワードは、メールにてお知らせする「医療保険講習会のお知らせ」をご確認ください。

<https://www.tokyo.med.or.jp/41697>

(開催情報ページ)

立川市医師会

成高中之

台湾茶

以前に私は台湾グルメをご紹介したことがあるが、今回は奥深い「台湾茶」の世界へ少しだけご案内しようと思う。

台湾茶と一口に言っても、その種類は実に多彩である。香ばしい焙煎が魅力の「凍頂烏龍茶」、標高の高い澄んだ空気の中で育つ「高山烏龍茶」、バニラのように甘く香るといわれる「金萱茶」、そして、ウンカという虫の恵みによって紅茶を思わせる高貴な香りを放つ「東方美人茶」――。

私がまだ幼かった頃、台湾に帰省するたびに親戚の叔父さんが自慢の茶器と茶葉、そして電気ポットを持って現れ、丁寧にお茶を淹れてくれたものだ。あの温かな湯気と独特なお茶の渋みは、今も大切な思い出として胸に残っている。

2000年代初頭、志村けんと金城武が台湾茶を楽しむ姿が印象的だった観光CMを、懐かしく思い出す方も多いのではないだろうか。あの舞台となった台北市の老舗「林華泰茶行」は、今も多くの旅人に愛されており、お土産選び、お土産話にもぴったりの場所だろう。

さらに深くお茶文化に浸るなら、ぜひ「猫空（マオコン）」の茶芸館を訪れてみてはいかがだろうか。台北市立動物園前からロープウェイに揺られて約4キロメートル、たどり着いた山の上では多くの茶芸館が並んでおり、夜になると台北のきらめく夜景が一望できる。現地の若いカップルたちもこぞってデートに訪れるのだとか。

円安やインフレで海外への足が遠のきがちな昨今ではあるが、ちょっと近くへ旅行にでも行くような気軽さで、週末に台湾の香りを楽しみに出かけてみてほしい。

（『立川市医師会ニュース』2026年6月第647号より抜粋）



My 茶器。マトリョーシカのように1個に収まります。



昭和記念公園

武蔵村山市医師会 押切 勝



軽井沢 雲場池の秋

三鷹市医師会 土屋正己

都医 HP・E メール

■ ホームページアドレス

<https://www.tokyo.med.or.jp>

■ Eメールアドレス jimu@tokyo.med.or.jp

無 声 拝 聴

医大新設の定員は
どこへ消えたのか

私は2000年卒業である。2000年に施行された第94回医師国家試験は合格率が79・1%と、前後の年より10ポイント近く低く、同期は少数だった。合格率が低かった理由としては、30問という少ない問題数での必修問題で8割以上得点しなければ不合格というルールが原因なのか、あるいは当時から噂されていた医師過剰への懸念から、人数調整のために合格基準が厳しく設定されたためなのかは定かではない。その議論はまた別の機会に譲りたい。

少人数のまま研修医として雑用を追われ、2年の初期研修を終えようとした矢先の2004年、新医師臨床研修制度が始まった。当時は研修医の過重労働が問題視され、新制度下の研修医には残業はさせないという運用がとられた。その分の下働きは、2000年から2003年卒業の世代へしわ寄せされ、負担ばかりが重くのしかかった実感がある。今にして思えば、これも当時から続いていた医師不足という大きな問題の一断面に過ぎなかったのだろう。

実際、地方の医師不足はその後も解消されるところか一段と深刻化し、国は2016年に東北医科薬科大学、2017年に国際医療福祉大学と、37年ぶりに医学部を2校新設した。1学年あたりの定員は、2校合わせて200数十名にのぼる。ところが今、初期研修を終えるとすぐ保険診療を離れ美容医療へ進む、いわゆる「直美」が年間200人規模に達しているという。数字だけ見れば、増員した分がそのまま吸い出されている格好である。

MMRワクチンの歴史と今後の展望

1989年に導入された国産麻しん・おたふくかぜ・風しん混合ワクチン(MMR)では、ムンプス成分としてUrabe系統が使用されていた。導入後、接種に伴う無菌性髄膜炎の発生頻度が想定を上回ったことから、安全性への懸念が高まり、1993年4月をもって定期接種は中止された。その後は、麻しん・風しん混合ワクチン(MR)2回接種にムンプス任意接種を組み合わせる体制が続いている。

ムンプスワクチンが任意接種として位置づけられた結果、接種率は安定せず、十分な集団免疫を確保できなかった。このため、ムンプス難聴を含む合併症の発生抑制には限界があり、ムンプス対策は長年にわたり予防接種行政上の課題となった。

こうした背景のもと、2026年5月11日に第一三共株式会社の乾燥弱毒生MMR「ミムリット®皮下注用」が製造販売承認された。ムンプス成分は海外で広く使用され、安全性が確立したRIT4385株(Jeryl Lynn系統)に置き換えられ、Urabe系統に起因した過去の無菌性髄膜炎の問題を回避している。麻しん・風しん成分は現行MRと同一であり、国内治験では免疫原性・安全性ともに良好な成績が示されている。

今後の焦点は、①定期接種化の可否、②現行ムンプスワクチンの定期接種化の是非、③麻しん再興への備え、④成人ムンプス免疫の減衰への対応である。定期接種化が実現すれば、1歳・就学前の2回接種をMMRで統一でき、接種率向上と保護者負担軽減が期待される。一方、MMRは現時点で同社の単独供給であり、生産トラブルや需給逼迫時の代替手段が乏しい点は、安定供給上の課題である。MMRの導入は、三疾患の接種率を高く維持するための政策転換として注目される。

(文責：萩原温久)

感 染 症 豆 知 識

東京都医師会
感染症予防検討委員会

知ってますか?

炎症ドミノ

強い暑さや高体温、脱水をきっかけに細胞が傷付き、体内で始まった炎症がドミノ倒しのように全身に広がる、熱中症重症化のメカニズムのこと。体温が平熱に戻った後も、血管や臓器へのダメージが続き、さらに炎症を増幅させながら多臓器障害に進行したり後遺症を残す。そのため、冷却や水分補給をなるべく早く行うことが、この炎症の連鎖を抑えるために重要である。

掲 示 板

園・学校で使える
子どもの保健
Q&A
内海裕美 著



著者といえは、読み聞かせと温かい育児支援。本書では、園や学校で遭遇する子どもの病気や生活習慣、心の問題などについて、Q&A形式で分かりやすく解説している。健康な子どもはもちろん、身体や心に問題を抱える子どもについても丁寧に取り上げられており、知識の解説だけでなく、「現場ではどう考え、どう対応するか」という実践的な視点が盛り込まれていて、子どもとその家族の心配事にどのように寄り添い、アドバイスすべいかをイメージすることができる。

園医や学校医を務める小児科医だけでなく、養護教諭、保育士、看護師など、子どもの保健に携わるすべての人にぜひ読んでほしい一冊である。子どもたちが安心して園や学校生活を送るために、周囲が共通の知識と対応の視点を持つことの大切さを改めて感じさせてくれる。

また、各項目がコンパクトにまとめられているため、全体を通して読みやすいだけでなく、必要な時に辞書のように使える構成も便利である。忙しい現場でも、短時間で必要な情報を確認できる実用性の高さと、著者の温かさを随所に感じることができる。

発行▼少年写真新聞社 価格▼2200円(税込)

第32回 日本医学会総会 2027

医学のレジリエンス

～みらいへの挑戦と貢献～

人生100年時代をどう生きるか

参加登録受付中

■ 参加登録期間 ■

事前登録期間

2026年2月5日(木)～2027年3月31日(水)

通常登録期間

2027年4月1日(木)～2027年6月15日(火)

学術講演会

2027年

4月23日(金)～25日(日)

2027年

4月22日(木)～25日(日)

大阪市北区 中之島エリア

大阪国際会議場、リーガロイヤルホテル大阪 ヴィニェット コレクション ほか

会頭 澤 芳樹

大阪大学 名誉教授

大阪けいさつ病院 総長

準備委員長 坂田 泰史

大阪大学大学院医学系研究科循環器内科学 教授

大阪大学医学部附属病院 病院長

主催/日本医学会 実行機関/第32回日本医学会総会

【学術講演会 参加登録に関するお問合せ先】

第32回 日本医学会総会 参加登録デスク

株式会社コングレ内

E-mail: isoukai2027-reg@m.congre.co.jp

TEL: 050-1723-0076

※平日10:00～17:00(土日祝日、年末年始期間を除く)

参加登録は
こちらから ↓医学の
レジリエンス監修
澤 芳樹

～みらいへの挑戦と貢献～

人生100年時代をどう生きるか

会 頭 澤 芳樹 大阪大学 名誉教授、大阪けいさつ病院 総長

準備委員長 坂田 泰史 大阪大学大学院医学系研究科循環器内科学 教授、
大阪大学医学部附属病院 病院長

参加登録はこちらから▶



第32回 日本医学会総会 2027

学術講演会 2027 4/23金～25日 情報交換スペース(学術展示) 2027 4/22木～25日 市民展示 2027 3/20土～28日

大阪市北区 中之島エリア 大阪国際会議場、リーガロイヤルホテル大阪 ヴィニェット コレクション ほか

大阪市北区 うめきたエリア

主催/日本医学会 実行機関/第32回日本医学会総会

医師と医師会を結ぶ 情報紙

都医^{ニュース}NEWS

2026

Vol.
728

地区医師会長からの一言

地域とともに歩む医師会を目指して

三鷹市医師会長 渡邊直幸



私は、令和7年7月から前会長の内原正勝先生の後任として第11代三鷹市医師会会長を拝命いたしました。三鷹市医師会は本年、法人設立60周年という大きな節目を迎えます。これまで地域医療を支えてこられた諸先輩方のご尽力に深く敬意を表するとともに、その伝統を受け継ぎ、次の世代へつないでいく責任の重さを感じています。

三鷹市の地域医療を語る上で、欠かすことのできない存在が杏林大学医学部付属病院です。杏林大学には独自の医師会がないことから、大学病院に勤務する多くの医師が「大学会員」として三鷹市医師会に所属してくださっています。このことは当医師会の大きな特色であり、大学病院と地域の医療機関が単に患者さんの紹介・逆紹介を行うだけでなく、日頃から同じ医師会の仲間として交流し、「顔の見える関係」を築くことにつながっています。杏林大学とは、救急医療をはじめ災害医療や各種健診など、さまざまな地域医療の場面で連携を重ねています。高度医療を担う大学病院と地域住民に最も近い診療所が互いの役割を理解し、密接に協力できることは、三鷹市の地域医療の大きな強みです。私自身も杏林大学医学部の卒業生であり、卒業後は同大学で小児科医として研鑽を積みました。大学と地域をさらに強く結びつけていくことも、私に与えられた役割の一つと考えています。

そして、もう一つ私が誇りに思っているのが、三鷹市医師会の会員同士の結束の強さです。当医師会では、先人たちが築いてこられた伝統として、会員相互の親睦を深めるさまざまな取り組みが長年大切に受け継がれてきました。診療科や世代を越えて交流し、互いの顔が見え、気軽に声を掛け合える関

係があります。その結束力はどの地区にも負けないものと自負しています。こうした親睦は単に楽しい時間を共有するだけではありません。そこで培われた信頼関係が、日々の診療連携はもちろん、地域の課題に向き合う時や災害などの非常時に、医師会が一つになって行動する力になると考えています。この素晴らしい伝統をこれからもしっかり守り、次の世代へ継承していきたいと思います。

一方、地域医療を取り巻く環境は大きく変化しています。少子高齢化、医療従事者の不足、医療機関の経営環境の悪化、災害時の医療提供、医療DXへの対応など課題は山積しています。特に超高齢社会においては、病院や診療所だけで医療を完結させることはできません。医療、介護、福祉、行政が垣根を越えて連携し、住民の皆様が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる仕組みを構築することが、地区医師会の重要な役割です。

私は小児科医として長く地域医療に携わってきました。子どもたちの健やかな成長を支えることも、高齢者が安心して暮らせる地域をつくることも、その根底にあるものは同じです。生まれてから人生の最期まで、地域全体で人々の健康と生活を支えることこそ、地域医療の原点ではないでしょうか。

法人設立60周年を新たな出発点として、先人たちが築いてこられた「人と人とのつながり」を何より大切にしながら、行政や関係団体との連携をさらに深めるとともに、伝統を守りながら新しい時代の変化にも柔軟に対応し、会員が誇りを持てる、そして市民から信頼される三鷹市医師会を目指してまいりたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。